

総務文教常任委員会 管外視察研修報告

委員長 南 雲 正

任期中一回の委員会管外視察研修を11月12日(火)から14日(金)の2泊3日の日程で実施しました。視察内容は子育て支援と教育行政、行財政改革とまちづくり、小中一貫教育、小学校の統合、統合中学校の校舎等、今後の湯沢町の子育て、教育、人材育成を根幹にした、まちづくりの方向性を探る研修でした。

●福島県矢祭町

①子育て支援と教育行政

(子育て支援条例の運用と成果、若鮎チャレンジサポート事業、もったいない図書館の運営、町の教育方針と特色ある教育の実践)

②行財政改革とまちづくり

(スタンプリング券等による公共料金の支払制度、議員報酬の日当制と自治基本条例)

※全国でいち早く、合併をしない町宣言をし、特色あるまちづくりと大胆な

行財政改革を続け、「元気な子供の声が聞こえる町」をまちづくりの指針として、子育てサポート日本一を目指している町であるため、九州から北海道まで6団体約50人による合同対応だった。

ユニークな教育施策とまちづくりの展開は、地域を知り尽くした若い女性教育長(前自立支援課長)の発想であり、この人の意欲と情熱を引き出して抜擢した町長の勇気を評価したい。

●福島県郡山市湖南小中学校

①小中一貫教育の推進について

(小中一貫教育への取り組みの背景、小中一貫教育の成果と課題、校舎等の教育施設の特徴)



矢祭町もったいない図書館(高信由美子教育長案内)

※少子化が進み、複式学級が多くなる現状を危惧し、地域住民から統合の声が上がり、地域で子供達の教育を真剣に考えるリーダーがいて、その人が中心になって検討を重ね、行政が後押しをして小中一貫教育の学校が出来たということであった。

湯沢中学校の建設には是非とも関係者が視察し、参考にして欲しい学校であった。

あった。

●新潟県関川村

①小学校統合への取り組みについて

(統合決定までの問題点とその解決方法、2010年統合に向けた現在の取り組み、統合小学校校舎の特徴等)

※村内5小学校の統合の合意に向けて、統合された学校がなくなる地域の強硬な反対者への時間をかけての説得、決して強引にことを進めようとせず、地域に出かけての懇談会の繰り返しによる合意の取り付け等、教育長を先頭とする行政側の努力には敬服させられた。また「説得するには時間がかかるが、辛抱強く対応しなければならぬ」という教育長の言葉は印象的だった。困難を乗り越えるパワーが、わが町の教育行政にも必要であることを認識させられた。

※生涯学習施設としての機能を持ち、地域に開かれた学校を基本構想として社会教育の観点から建設された「教科センター方式での学校生活」をコンセプトに創られた校舎である。社会教育係長から抜擢され、中学校建設を担当した40歳代の若き教育長の強力な意図と情熱がいまだに学校運営の隅々まで脈々と生きていくことが感じられた。

●まとめ

かつて、まちづくりは生涯学習から始まるといわれた時代があったが、この視察研修で、どの自治体も教育長の積極性と教育に対する熱意に驚かされた。地域を知り尽くし、まちづくりの根幹を人づくり、人材育成に置き頑張っている旗振り役の教育長が、今の時代こそ必要であることを実感させられた。

●新潟県聖籠町聖籠中学校

①統合中学校の校舎の特徴及びその活用について